

「葛飾柴又の文化的景観」ニュース

昭和100年 ～柴又の昭和を振り返る～

「どこか懐かしい」「古き良き日本の原風景」「昭和レトロ」などの言葉で表現され、若い方から年配の方、海外の方も多く訪れる柴又。昭和100年の今年、柴又の歴史の中の「昭和」を振り返ってみたいと思います。



▲金子屋

▲柴又ハイカラ横丁

日本の出来事

柴又の出来事

- 大正元年(1912)――●
- 大正3年(1914)――●
(～大正7年(1918年))
第一次世界大戦
- 大正12年(1923)――●
関東大震災
- 大正15年(1926)――●

大正時代

- 大正元年(1912)
京成電気軌道(現京成電鉄)「曲金(現京成高砂)駅～柴又駅」開通
- 大正2年(1913)
京成電気軌道「金町駅～柴又駅」開通
- 大正10年(1921)
江戸川の河川改修
- 大正14年(1925)
(～昭和3年(1928))
柴又本町耕地整理事業
- 大正15年(1926)
金町浄水場が竣工



▲柴又本町耕地整理地区(個人蔵)



▲開業して間もない京成線柴又駅(京成電鉄提供)

- 昭和元年(1926)――●

- 昭和16年(1941)――●
太平洋戦争
- 昭和20年(1945)――●
東京大空襲、終戦
- 昭和22年(1947)――●
カスリーン台風

▲山本亭(重要な構成要素)にのこる防空壕

昭和時代

- 昭和3年(1928)
(～昭和9年(1934))
柴又第一耕地整理事業
- 昭和4年(1929)
題経寺帝釈堂(相の間・拜殿)完成
- 昭和10-20年(1935-1945)頃
柴又街道敷設



▲大正末～昭和初期の纏奉納(個人蔵)



▲大正～昭和前半頃の帝釈天題経寺(中央)と周辺の佇まい(個人蔵)



▲大正～昭和前期の江戸川河川敷の風景(個人蔵)

- 高度経済成長
- 昭和33年(1958)――●
東京タワー完成
- 昭和39年(1964)――●
東京オリンピック
- 昭和45年(1970)――●
大阪万博
- 昭和64年(1989)――●

- 昭和28年(1953)
第1回葛飾納涼花火大会開催
- 昭和30年(1955)
題経寺大鐘楼完成
- 昭和32年(1957)
映画『大番』公開
- 昭和44年(1969)
映画『男はつらいよ』公開
- 昭和48年(1973)
題経寺鳳翔会館完成



▲カスリーン台風後の参道で遊ぶ子ども(茗荷屋提供)



▲山田洋次監督揮毫の「映画の碑」(重要な構成要素)



▲昭和25年頃の参道(川千家提供)

- 平成元年(1989)――●

平成

- 平成31年(2019)

- 令和元年(2019)――●

令和

- 令和7年(2025)

昭和の思い出

～川千家 会長 天宮吉久氏～

戦争と災害 昭和15年(1940)生まれなので、終戦時は5歳でした。終戦間際に空襲警報が鳴り、敷地内の防空壕に隠れた記憶があります。防空壕と言っても穴を掘って木のお風呂を埋めた簡素なもので、実際に弾が当たればひとたまりもなかったと



天宮吉久氏

思います。昭和22年(1947)のカスリーン台風の時は、地盤が高い柴又も床上まで浸水しました。参道は子どもの股下位の水位でしたので、小学生だった私は父が作ってくれた「いかだ」や「たらい」に乗って遊びました。大変な災害でしたが、子どもの私にとっては楽しかった思い出です。

子どもの頃の遊び 金町浄水場の水門付近にU字溝があって水が流れてきていました。小学校入学前はそこで泳ぎ、小学2年生になると出世して江戸川で泳ぐようになりました。引き潮の時は矢切の渡しへの辺りに島が現れます。島までは水深が浅かったので、石を島まで持って渡る遊びをしました。その他にも、その頃の参道はコンクリート舗装だったので、近所の子供達とチョークやろう石で絵を描いて遊びました。

戦後の参道 戦前の宵庚申(庚申前夜)は、朝5時の題経寺ご本尊の一番開帳を待って柴又で夜を明かす人がいたので、一晚中店を開けていました。昭和10年(1935)頃から軍事体制下の贅沢禁止の風潮の中でなくなったようです。戦後間もない頃の参道は参拝客は少なく、社会が落ち着いた昭和25・26年頃から、60日毎の庚申の参拝に人が来るようになりました。私が子どもの頃の庚申の日は賑やかで、うちも朝早くから店を開けていました。参道には露店が出て、私も親から小遣いをもらって遊んだことを覚えています。



江戸川土手の売店
(昭和8年(1933)頃)

江戸川の桜並木 江戸川土手にあった桜並木は、花見の時期は大変な賑わいでした。みんな白い開襟シャツを着ていたの、遠くから見ると一面、白く見える程でした。土手にはヨシズを張った屋台が出て、私もゴザを背負って遊びに行きました。

参道の賑わい 普段の土日に参道が賑わうようになったのは昭和44年(1969)に映画『男はつらいよ』が公開されてからです。昭和32年(1957)には獅子文六の『大番』がうちの店でも撮影されましたが、影響が大きかったのは『男はつらいよ』です。昭和58年(1983)の細川たかさんの歌謡曲『矢切の渡し』も大きな反響がありました。

幼少期に戦時下を体験され、災害を含め辛い時を明るく元気に駆け抜けた少年時代。戦後の復興と経済成長の中、全国に知られる観光地・柴又の発展を牽引されつつ、昔ながらの商いや門前町の風情を守り続けてこられた天宮氏。昭和の思い出とともに、「次世代の方々が柴又を守ってほしい」と穏やかに語った言葉が印象的でした。

昭和レトロな建物と温かい空間

～柴又ハイカラ横丁 店主 韓永作氏～

お店を始めたのは平成16年(2004)です。元々昭和レトロな空間や建物が好きで、そういったテーマパークに行くのが好きだったんです。

そういう所に行くときすごくホッとした気持ちになって、そんな空間を自分で作りたいと思ったのがきっかけです。この場所で商売を始めた理由は、父親が柴又をすごく好きだったからです。私も亀有や高砂で生まれ育ったので、この辺りは地元で親しみがあります。



店主の韓永作氏

柴又は、すごく気楽な街というか、肩肘張って気取ってなくてもいいところが魅力だと思います。お店を始めるに当たり、色々なものを集めたり調べたりするのに時間はかかりましたが、夢中になって取り組みました。2階のおもちゃ博物館にあるものは、半分以上はお借りしているものです。ここをやりたいと思った時に資料として



買った本を書いた方が柴又の方だということが分かり、その方と連絡が取れたんです。それで、おもちゃ博物館をすることに賛同いただいて、お借りできることになりました。お店を始めて嬉しかったことは、昭和レトロを好きな方々がお店に来て話しかけて下さり、そして、新しいお付き合いが広がったことです。海外の方もたくさんお越しいただいています。以前は香港や台湾の方が多く印象でしたが、ここ2、3年は欧米の方、最近ではフランスの方が増えたなと思います。日本のお客様は、小さいお子様から年配の方まで幅広い世代にお越しいただいて、人気のある商品も世代によって様々です。若い世代の方はお店の空間を懐かしいというより新鮮な感じで捉えていらっしゃるのかなという気がします。この店は買い物だけでなく、遊ぶこともできる空間なので、お客様には、ここでの時間を楽しんでもらえたらと思っています。

ここでの時間を楽しんでほしいという韓氏の言葉の通り、この日もたくさんのお客様が訪れ、思い思いに商品を眺め、ゲームで遊び、写真撮影を楽しむ様子が印象的でした。氏の思いが込められた昭和の温かさを感じる空間が、柴又の風情に溶け込み、昭和を知らない世代や海外の方にも新鮮な魅力として映り、惹きつけているのだと感じました。

帝釈天題経寺「開山堂」「祖師堂」「二天門」「帝釈堂」「大鐘楼」「渡り廊下」が葛飾区指定有形文化財に、「鳳翔会館」が葛飾区登録有形文化財に！

(令和7年3月31日告示)

「葛飾柴又の文化的景観」を象徴する寺院・帝釈天題経寺。建造物としてのそれぞれの価値とともに、その独特な造営過程など建物群としての価値が評価されました。今号では各建造物の歴史や価値をご紹介します。

開山堂(釈迦堂) 文化11年(1814)建築と考えられ、境内で2番目に古い建物。当初、現在の祖師堂の位置で妻入の祖師堂(図2)として建設され、後ろに本殿が増築された際に向きを変えて平入の拝殿となり、さらに現在の位置に移転し向拝が付いた、最も動的な改造・転用の履歴を持つお堂です。住宅的な意匠だったお堂に内観・外観ともに仏堂らしい装飾が付加されてきました。現在の姿・位置となったのは大正6年(1917)頃と推定されています。

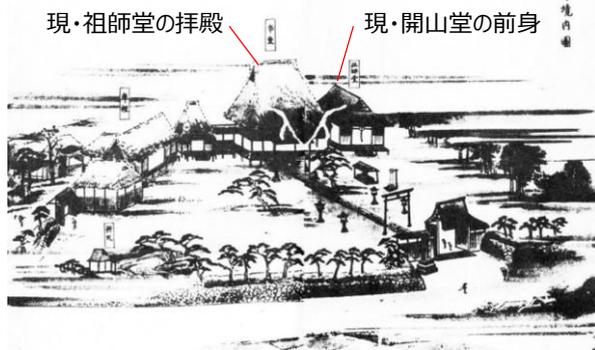


図2『新編武蔵風土記稿』(江戸後期)に描かれた境内



図3 旧帝釈堂拝殿(現祖師堂拝殿)(大正末～昭和初期頃)



図4 現在の帝釈堂

鳳翔会館 昭和48年(1973)竣工。有名建築家の菊竹清訓の設計によるもので、同規模・同構造形式のユニットが3棟並ぶ平面形状と鉄骨造のHPシェル屋根が特徴です。軒の出が小さく、透明感のある各ユニットは、境内の伝統的な建築群の景観を阻害しないことに加え、建物外観に特有の浮遊感をもたらしています。桁行方向に将来的に増築する意図が見取れ、菊竹らが提唱した「メタボリズム」(新陳代謝)の理念を感じさせる特徴的な外観を有しています。

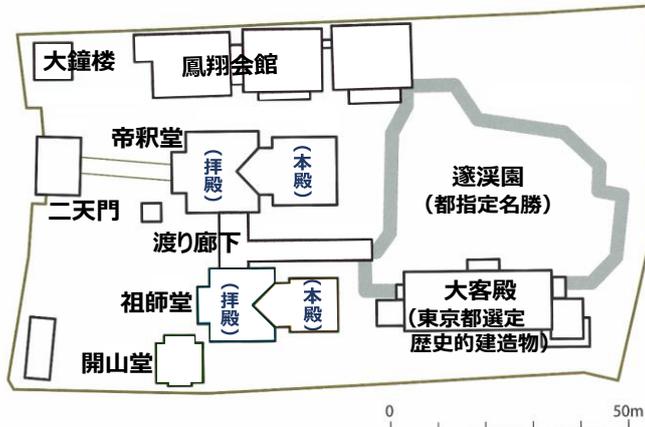


図1 現在の諸堂の配置

祖師堂(本堂) 拝殿は天明6年(1786)建築と考えられ、境内で最も古い建物。茅葺の本堂(図2)として、当初、現在の帝釈堂の位置に建てられ、後に瓦葺となりました(図3)。日蓮聖人自刻と伝わる板本尊が発見(1779年)され、題経寺の帝釈天信仰が高まる中興の時期の建設です。後に付加された内殿・相の間は、抑制の利いた、整った造形の装飾を持ち、文政期の建築として高い質を有します。

二天門 帝釈人車鉄道開業直前の明治30年(1897)の建築で、近代における題経寺発展の出発点に位置する建造物です。日光東照宮以来の北関東の寺社建築の系譜を、構造形式、平面、細部意匠の点で受け継いだ建造物で、豊かな彫刻からも帝釈堂の正面に立つ楼門として高い格を与えられたものであることがうかがえます。

帝釈堂 内殿は大正4年(1915)、拝殿・相の間は昭和4年(1929)の竣工です。国宝・歓喜院聖天堂(熊谷市妻沼)などを手がけてきた大工棟梁の林家一門の手になるもので、林家一門が扱った権現造として、その系譜を締めくくる最後の大作と言えます。内殿の10枚の胴羽目彫刻をはじめとする彫刻類の装飾も、近代に建てられた伝統建築の中で突出した存在です。

大鐘楼 終戦10年の節目の昭和30年(1955)の建築。形式、細部意匠ともに、二天門から帝釈堂へと続く明治以降の新築堂宇と連続した造形を有し、題経寺境内の本格的な伝統意匠による造営が戦後も継続されたことを示す建造物です。林家一門による造営であり、伝統的な様式による大規模な境内整備の最後を締めくくる建造物です。

渡り廊下 昭和31・32年(1956・1957)建築。帝釈堂、祖師堂、遂溪園・大客殿を結び、諸堂と一体をなす構造となっており、境内の寺院建築を構成する貴重な建造物です。豊かな彫刻には江戸時代後期以降の帝釈天題経寺の歴史が刻まれています。

「縁」を大切にする ～柴又フロリズ通りフェスティバル実行委員長 齋藤清一氏～

5月18日(日)、第6回柴又フロリズ通りフェスティバルが開催されました。葛飾区はオーストリア共和国ウィーン市フロリズドルフ区と友好都市提携を結んでいます。柴又の方々はこの「縁」を大切に育んできました。



両区を繋いだのは柴又の「人」と「風景」。昭和61年(1986)、ウィーン市のツルク市長(当時)が来日する飛行機内で映画『男はつらいよ』を鑑賞し、映画に映し出された人物や家族模様がウィーン市民の気質に、柴又の風景がウィーン郊外の風景によく似ていると感じたそうです。その翌年、両区の友好都市提携が結ばれました。以来、柴又の方々は相互訪問などを通じて友好関係を育んできました。提携30周年(平成29年(2017))には、新柴又駅北側に整備された道路を「フロリズ通り」、通りに面した花壇を「フロリズ花壇」と命名し、柴又小・東柴又小・桜道中の児童・生徒と柴又自治会の皆さんが中心になって花壇の手入れを行っています。フェスティバルは、この花壇の周りで、地元の方々の手作りで開催されます。「準備は3か月前から始め、イベント運営まで柴又の人達の手で行う。当日も朝7時に集まってテントなどの設営を行い、終了後は夕方までかかって片づけを行います。」と齋藤清一実行委員長が語ったように、今年も実行委員の方々を中心にチラシの投函や看板制作を行い、初夏のような暑さの中で小中学生への記念品の袋詰めなどの準備を行いました。会場を盛り上げた地元小中学生の演奏では映画『男はつらいよ』のテーマ曲が演奏され、会場ではオーストリア産ワインや柴又製品の販売のほか、フロリズドルフ区から提供いただいたチーズが振舞われるなど、両区の魅力満載のイベントになりました。



準備をする実行委員の皆さん
(右が齋藤実行委員長)

フェスティバルには新潟県上越市浦川原も出店し、特産品の味噌等が販売されました。太平洋戦争末期の昭和19年(1944)、東京への空襲が激化する中、子ども達の地方疎開が進められました。この時、柴又小学校の子ども達を受け入れてくれた地域のひとつが浦川原村(当時)でした。戦後80年の今年も柴又の方々は子ども達を守ってくれた「恩」を忘れず、この時の「縁」を大切にしています。齋藤実行委員長は「フェスティバルを通して浦川原との交流の歴史を知ってほしい」と語ります。



桜道中学校生徒による brass band 演奏

昭和を代表する映画『男はつらいよ』が繋いだ縁、戦争という昭和の出来事の中で繋がった縁。このフェスティバルは、柴又の人々が大切にしてきた「縁」(地域と人の繋がり)を形にした、人情のまち柴又ならではのイベントです。



フロリズ花壇前で執り行われた開会式(右端は挨拶をする齋藤実行委員長)

ご注意ください

「葛飾柴又の文化的景観」の選定範囲内で工事等を行う際、協議や届出等が必要な場合があります。

- **柴又まちなみ景観ガイドライン** (特定非営利活動法人柴又まちなみ協議会)
柴又6丁目の一部・7丁目の一部において建築・改修等工事を行う場合
- **葛飾区景観地区条例等** (葛飾区都市計画課)
柴又地域景観地区内で建築物や工作物の新築、新設、外観の変更等を行う場合
- **重要文化的景観に係る選定及び届出等に関する規則** (葛飾区生涯学習課)
重要な構成要素がき損した場合や工事等を行う場合



「文化的景観ニュース」のバックナンバーのほか、「葛飾柴又の文化的景観整備計画」や「文化的景観パンフレット」を、上記の二次元バーコードよりご覧いただけます。

【お問合せはコチラ】 葛飾区教育委員会事務局生涯学習課文化的景観係

〒124-8555 葛飾区立石5-13-1 TEL 03-5654-8477 FAX 03-5698-1541